

海底からセレンウム検出

水俣の奇病、学会で報告

第二十七回日本衛生学会総会は八日から四日間の予定で箱根湯本の神奈川県立観光会館で開かれた。

第一日目の八日は全国の衛生学関係者およそ八百人が参加、百二十三日目の研究発表が行われた。特に午前中発表された国立公衆衛生疫学部長松田心一博士、熊本大学

医学部入鹿山勝朗博士らの水俣地方に発生した原因不明の「中枢神経系疾患」研究成果が注目をあびた。

この奇病は二十八年末水俣地方の漁村を中心に発生、症状としては激しい運動障害を起し、現在まで五十六の発病者のうち十七人が死亡している。両博士らはこの原因を調べたところ、発病者はいずれも水俣灣でとれる魚に食生活を依存し、野菜類をとりぬ偏食生活を続けているものにみられ、原因は感染ではなく中毒によるものと判つた。

そしてその原因となる有毒物は水俣市内にある窒素肥料会社の排水、廃棄物によつて強い汚染をうけているのではないかと海床土を分析したところ有害のマンガンが百ppm中六五ppm、セレンウムが一ppm中三〇—一〇〇ppmと多量に検出された。